

広島派遣研修に参加して

糸魚川中学校 2年4組 横澤 美結

今回8月5日から8月7日までの3日間、広島派遣研修に参加させていただき、実際の原爆ドームや平和記念資料館で当時の写真や映像を見たり、原子爆弾の被害にあった方のお話を伺いました。

私が最も心に残ったのは、波田保子さんによる被爆体験講話です。1945年8月6日の朝、広島市に投下された原子爆弾は、地上600メートルの上空で炸裂し、爆心地から2km以内にいた12万人もの方々が、その年の12月までに亡くなりました。生きている方々も、被爆の影響で発熱や下痢など様々な症状により、その後も長い間苦しむこととなりました。また町中の景色も変わり果て生活も一変し、絶望的な状況と化しました。1つの原子爆弾が一瞬にして、人々の生命や市民生活を変貌させ現代からは想像し難い状況となってしまいました。子供だった波田さんも、働かざるを得ない状況となり、とても厳しい環境だったそうです。その当時を思い浮かべただけでも、とても胸が苦しくなり、言葉では表しきれない気持ちになりました。

今私達は、当たり前のように家族や友達と一緒に過ごし、遊んだり、ご飯を食べたり、お風呂に入ったりして、当たり前のことが当たり前のようにできています。このような生活が送れるのは、この時の辛く悲惨な経験から先人の方々が、平和というものを作り、守り抜いて下さったからこそだと思います。

次に大和ミュージアムについてです。その当時、必要最低限の者のみで極秘

に造船され、イギリスやアメリカにそれ以上の戦艦が造られないような造船技術や設備の工夫がされていました。また、日本の中で呉市に旧大日本帝国海軍の海軍工廠ができた理由などを知ることも出来ました。戦艦大和を通して、海軍の歴史や日本がどのようにして戦争に臨んだのかについてより詳しく学ぶことができました。

そして、8月6日に行われた平和記念式典です。恒久平和を願う誰もが知っているこの式典に出席させていただくことができ、とても感慨深い経験となりました。今現在ロシアとウクライナによる戦争が起きています。世界各国の方々が式典に参加し、平和宣言を行い、平和について改めて世界共通の認識を持つことで核兵器の廃絶と、世界平和の実現に向けて今後も訴え続けていく必要があります。

最後に現在被爆者の方々の平均年齢が80歳を超え、その方々が後世に伝えることが難しくなっています。このような辛く悲惨な戦争が二度と起きないように、私達にできることはとても小さなことかもしれませんが、今を生きる私達が中心となり、当たり前のあるこの平和の大切さをしっかりと伝えていく必要があると考えました。
